平成23年度学内版 GP 成果報告書

取組名	分子からヒトまで:実践の場を備えた包括的予防医療者の育成プログラム
実施組織	医学系研究科加齢適応医科学系専攻
実施責任者	谷口 俊一郎
取組の目標	「包括的予防医療者」養成のための仕組み作り
<p>1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)</p>	<p>取り組み目標の具体的内容は下記のとおりである。</p> <p>1) 既存教育体系の拡充</p> <p style="padding-left: 20px;">①教育の平準化</p> <p style="padding-left: 20px;">②専門領域個別科目の充実と融合</p> <p>2) 教育研究の実践の場形成とデータベース構築</p> <p>3) 複数教員指導体制</p> <p>このために行った活動と成果は</p> <p>1) 従来の加齢適応医科学系専攻を進化的に改組し、従来の組織に病理学、循環病態学(発生工学)の専門分野を加えて、<u>教育体系の拡充を図り、複数教員指導体制をもつ疾患予防医科学系専攻を設置した。</u></p> <p>2) 文部科学省に「食と運動による医農連携型個別予防医学の創出」プロジェクトの概算要求をし、これが認められ、この研究事業を遂行した。その結果、<u>教育研究の実践の場形成とデータベース構築をさらに進展させた。</u></p> <p>3) 従来の加齢適応医科学系専攻における教育研究の成果を第4号専攻報を作成し自己評価の資料および報告書として学内外に配布した。</p>
<p>2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望</p>	<p>包括的予防医学研究とその大学院教育は時代の要請でもあり、本学の重点研究領域としても定められている。従来の加齢適応医科学系専攻はそのミッションを十分に果たしてきたが、専門領域を拡充充実させる進化的改組によって、さらなる発展が期待される。新専攻は、信州大学の特長的存在として全国医学系大学院のモデル的教育研究組織となるポテンシャルを有すると考えられる。そのためには、医学系研究科、そして大学の理解と支援が必須である。</p>